

現状・課題

- 小学校、中学校、高等学校において、特別な支援を必要としている児童生徒が増加している。
 - ・ 小・中学校の通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒 ⇒ 小学校・中学校：8.8%
 - ・ 高等学校に在籍する特別な支援が必要な生徒 ⇒ 2.2%
 - ・ 小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒数の増加 → R3比：424名増 57学級増
 - ・ 通級による指導を受けている児童生徒数の増加 ⇒ H19比：約3.2倍 567学級増
 - ・ 通級による指導を受けている児童生徒数の増加 ⇒ R3比：238名増 H19比：約3.8倍

多様性を力にかえ、個性を大切にしながら、誰一人取り残さない地域をつくる → **Well-beingの実現へ**

- 各学校において学びの場は整備され、個別の教育支援計画も作成されるようになってきたが、就学の仕組みや手続き、教育課程、個別の教育支援計画の活用課題がある。また、乳幼児期から学校卒業後の間に、支援と学びが途切れてしまうことがある。

目標

乳幼児期から学校卒業後まで、切れ目のない支援と学びを引継ぎ、子どもや保護者を支える体制を整える。

内容

新

地域支援体制整備事業

- ・「特別支援教育アドバイザー」を特別支援学校の地域支援センターに配置
- ・就学前の子どもたちや市町村をサポート

地域支援センター24校
10校に各1名配置（計10名）

- ・「入院児童生徒支援員」を病弱支援学校の地域支援センターに配置
- ・長期入院中の児童生徒に対する遠隔教育の推進

病弱特別支援学校2校に各1名配置（計2名）

新

特別支援教育研修推進事業

ニーズ等の調査

- ・県内の研修の実施状況やニーズ等の調査の実施
- ・研修推進アドバイザーの活用
- ・事業連絡協議会の開催
- ・障がい特性や認知特性等に係る研修の実施

夢に向かってテクノチャレンジ事業

- ・高等部生徒が技能検定種目等にチャレンジする場の設定
- ・高等部卒業生の就職率の向上
- ・児童生徒の多様性に応じたキャリア教育の推進

取組

<各教育事務所域内>

- 新規：地域支援チーム戦略・連携会議（年3回）
- ※地域支援の体制づくりを戦略的に進める



市町村
小・中・高校

特別支援教育アドバイザーによる支援

小・中・高校における特別支援教育に係る研修の充実

就学前

小学校

中学校

高校



卒業後



病気療養中の児童生徒に対するICT機器を活用した遠隔教育による学習への支援



特別支援学校

技能検定や作業製品品評・展示の実施